

報告事項カ

平成29年度韓国江原道との教員交流について

平成29年度韓国江原道との教員交流について、別紙のとおり報告します。

平成29年11月22日

鳥取県教育委員会教育長 山本仁志

平成29年度韓国江原道との教員交流について

平成29年11月22日
小 中 学 校 課
特 別 支 援 教 育 課
高 等 学 校 課

1 趣 旨

鳥取県教育委員会と韓国江原道教育庁との教育交流の一環として、訪問団を派遣し、学校及び教育関係施設訪問をとおして、教育問題等について意見交換を行い、相互理解と友好を深め、交流の促進を図るとともに、国際理解教育をはじめとする本県教育の向上に資する。

2 派遣期間

平成29年10月24日（火）～10月27日（金）

3 訪問団の構成

団 長 高等学校 校長

副団長 中学校 教頭

団 員 小学校教諭2名、中学校教諭1名、高等学校教諭1名
特別支援学校教諭2名、事務局他2名

4 訪問の概要

月 日 (曜日)	行 程
10月24日 (火)	○米子鬼太郎空港—韓国仁川空港—春川市 (道庁所在地)
10月25日 (水)	○韓国江原道教育庁訪問 ・教育監表敬訪問 ・江原道教育施策の説明及び意見交換 ○昭陽 (ソヤン) 中学校 ・概要及びキャリア教育 (進路指導) について説明・質疑応答 ・学校案内 ○原州 (ウォンジュ) 医療高等学校訪問 ・概要及びキャリア教育 (就職) について説明・質疑応答 ・学校案内
10月26日 (木)	○束草 (ソクチョ) 女子高等学校訪問 ・概要及びキャリア教育 (進学) について説明・質疑応答 ・学校案内 ○江原進路教育院訪問 ・概要紹介及び政策説明 ・施設紹介
10月27日 (金)	○韓国仁川空港—米子鬼太郎空港

※交流の詳細については、別添のとおり。

別 添

1 江原道教育庁訪問

- 道教育の目標は個人の人間性の実現を通じた幸せの追求にある。教育で個人の主体性を形成し、『知ること』の喜びを感じさせながらともに生きていく共同体となることを目標としている。
- 教育の推進を図るための先進国型の教室福祉の3大プロジェクトとして、①楽しく勉強するための授業福祉、②夢を育む進路福祉、③最高の教育環境のための施設福祉の各事業を行っている。
- 地域教育共同体（児童生徒を学校、家庭、地域の皆で育てる）での教育を行い、地域社会の協力を通じて児童生徒へのケア、学びの機会の拡大を図っている。
- 各校種の重点取組
 - ・ 小学校・・・幼稚園との連携を密にし、ハングル教育の見直し教育の充実
 - ・ 中学校・・・結果による評価ではなく過程中心の評価に移行した生徒の学び成長評価制の導入
 - ・ 高等学校・・・自分の興味関心による研究進路学習個別化進路教育の充実



教育庁内に設置されている職業実習の場となっているエリアについての説明

2 施設訪問の概要

■昭陽(ソヤン)中学校

- 「小さな成功大きな喜び」「創意的挑戦」を教育目標とし進路意識を育成するための様々な取組を行っている。
- 1年生の午前：普通教科授業、午後：職業体験を行う「自由学年制」において、地域と連携し様々な職業の体験を行い、職業についての意識を高めている。2、3年生では40を超える職業・芸術体験を中心としたプログラムによる進路体験活動を行い、将来を見据えたキャリア教育への取組を行っている。
- 体験活動を行った生徒の90%以上の生徒が、自分の進路選択に有益であったと評価しており、生徒も積極的に進路について考える仕組み作りを取組んでいる。



授業の様子（日本語授業）



■原州(ウォンジュ)医療高等学校

- 韓国内で唯一の医療機器分野のマイスター高として、充実した医療装備製造分野を中心とした教育課程を運営している。
 - 1年次は基礎技術の習得、2年次は基礎技術を進化させた応用技術の習得、3年次は産業別授業へと段階的に授業を進めながら、さらに地域の医療機器産業界との連携を行い、より専門的な指導を行っている。
- ※ マイスター高：国の施策により、地域の戦略産業や産業界と連携した有望分野に関する知識と実務能力を備えた技術英才の育成を目標とする学校。



高度な技術習得のための専門性の高い医療機器

2017年現在48校。機械・バイオ・海洋など23分野の学校があり

医療機器分野は原州医療高校のみ。江原道内にはマイスター高は全部で2校。

■東草(ソクチョ)女子高等学校

- ゴミ分別回収等環境教育の実践指導や詩画展、読書写真展等、読書活動を通じた人間性を高める教育に積極的に取り組んでいる。
- 地元にある「江原進路教育院」を活用した進路職業教育や、ソウルの大学（建国大、漢陽大）見学及び探訪、文化体験や数多くのクラブ活動等、数多くの体験的プログラムを通して、生徒が意欲的に学びに向かうための取組を数多く行っている。
- 選択科目で日本語を学習している生徒もおり、その中の代表生徒3名による日本語での学校施設案内を受けた。3名の生徒それぞれが自分の将来の目標、意見をしっかりと持っている姿に、生徒の興味関心が学習意欲を高め、学力の向上へとつながっていることを実感した。



生徒による施設案内



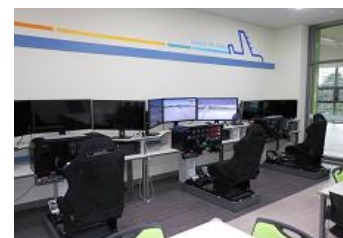
詩画展

■江原進路教育院

- 幼小中高校生対象の進路教育プログラムと教員及び学校運営者の進路教育研修、進路専門教師研修、保護者研修等様々な研修プログラムがある。
- 「建築」「デザイン」等をテーマとした海外研修プログラム（20名）を実施している。3回の事前研修としてキャンプを行うなど研修を深めるためのプログラムも行っている。
- 2016年には、学期中に1万人を超える小中学生の利用、休み中には高校生を中心に約600人、週末には500人を超える幼小中高校生の利用があり、全ての研修において利用者の満足度90%を超えるものであった。
- 放送関係、デザイン、ロボット技術、建築、航空、美容、医療等、様々な分野を学ぶエリアがあり、プログラムの一つ一つの専門性が非常に高く、児童・生徒の興味関心を引く工夫の凝らされている内容や体験を行うプログラムであった。
- 教育院内にカフェがあり、支援を必要とする生徒の職業実習の場となっている。



生徒製作作品



航空体験エリア



医療に関する職業エリア